

縮小社会研究会



座談会（対面およびオンライン）

日時：2024年7月30日、17時～19時30分

場所：事務所（定員は先着順15名）

オンライン（zoom）（定員なし）

<https://us02web.zoom.us/j/87514655848?pwd=SNuX0bM4baRs8kDoAy27RczN3zkbdz.1>

パスコード：296211、ミーティング ID：875 1465 5848

この間、オンラインの行事が多かったので、遠方の方の参加は容易になりました。しかし、対面でビールでも飲みながら話したいとの希望もあります。そこで、事務所にて座談会を開催します。1時間の講演のあと、飲み物と軽食での懇談をします。

里山循環モデルとその限界点越え

話題提供：谷 誠 さん（京都大学名誉教授）

要旨：人間は現状の改良を求めて欲求を拡大させるが、地球・生物・人間の相互作用の維持という物質的な基盤との間に矛盾が生じる。その結果定常性の限界点を越えることになり、大陸国家は周囲の侵略で回避する歴史を歩み、その結果が国際紛争の激化を招いている。一方、鎖国していた江戸時代の日本は、里山の生態系に依存する「里山循環モデル」に基づく経済が営まれていたのだが、限界点越え回避のために欲求抑制の必要性が誰にも共有されていた。利潤拡大を属性とする資本主義の行き詰まりが目立つ現在、縮小社会への軟着陸が望まれるが、そのためには、「人類の絶滅」という究極的な限界点までの時間を引き延ばすことの意義を共有する必要があるだろう。欲求抑制を自主的に選択する可能性が生じるからである。



参考資料：谷誠：矛盾の水害対策、新泉社、2023、2750円

参加登録：会場の定員がありますので、松久 (h.matsuhisa@shukusho.org) まで、会場参加かオンライン参加をお知らせ願います。

一般社団法人 縮小社会研究会 e-mail: jimukyoku@shukusho.org HP: <http://shukusho.org/>